

令和7年度小高区地域協議会視察研修について

1. 日程について

11月～12月中旬頃で調整予定

2. 研修内容について

〔案 1〕浪江町役場及び福島国際研究教育機構（F-REI）【日帰り】

テーマ：地域内の交流機会について

目的：浪江町の復興状況や今後の復興事業の方向性・進捗について学ぶ。

福島国際研究教育機構（F-REI）の組織や今後の計画を理解する。

研修地：浪江町（F-REI、Fh2R等）、双葉町（伝承館、浅野撫糸等）

（現地までの所要時間：20分～25分）

内 容：

《福島国際研究教育機構（F-REI）》

福島をはじめ東北の復興を実現するため、夢や希望を与えるとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指している。

《浪江町》

主に再生可能エネルギーの普及や持続可能な地域づくりに焦点を当てている。水素社会実現及びゼロカーボンシティ達成に向け、町内では様々な分野において水素利活用に関するプロジェクトが進んでいる。

《双葉町（伝承館、浅野撫糸）》

伝承館では、福島で起きた地震、津波、東京電力福島第一原発事故という未曾有の複合災害の実態や、復興に向けた歩みを展示するとともに、被災した住民により語り部講和を実施されている。

浅野撫糸は岐阜県に本社をもつ企業で、令和5年に双葉に新工場が建設された。1階にはタオル関係の販売やカフェも併設されており、双葉町の新しい観光スポットになっている。

〔案 2〕飯舘村、浪江町津島【宮内の笠踊り・手踊り、南津島田植踊り】【日帰り】

テーマ：文化・芸能の継承復活

目的：震災後、地域で行われていた民俗芸能や年中行事が途絶えた状況を踏まえ、その復活と継承が重要な課題のため、これまでの取り組みを学ぶ。

研修地：飯舘村（飯舘村役場等）、浪江町（浪江町役場等）

（現地までの所要時間45分）

内 容

《飯舘村》

宮内地区に伝わる「宮内の笠踊り・手踊り」が15年ぶりに地元の綿津見神社に奉納された。

《浪江町》

浪江町津島では、南津島田植踊りが令和6年に復活となった。

[案 3] 宮城県七ヶ宿町【しちかしゅ暮らし】〔日帰り〕

テーマ：移住・定住

目的：移住・定住者との関わり方について、これまで七ヶ宿町が取り組んできた事業やその進め方を学ぶ。

視察先：宮城県七ヶ宿町（七ヶ宿町役場）

（現地までの所要時間 1 時間 50 分）

内 容：

《宮城県七ヶ宿町》

人口が宮城県内で一番少ない（約 1,200 人）町だが、平成 27 年度から移住定住施策に力を入れ始め、少しづつ成果が見え始めている。

U ターン I ターンによる移住者が毎年 40 人、平成 28 年から令和 5 年の 8 年間で 300 人を超える方が七ヶ宿町に移住されている。

[案 4] 西会津町及び二本松市【空き校舎の活用】〔日帰りもしくは 1 泊 2 日〕

テーマ：空き校舎の活用

目的：廃校を活用した事例について学ぶ。

視察先：福島県西会津町（西会津国際芸術村）

二本松市（二本松市役所）

（西会津町までの所要時間 2 時間 30 分）

二本松市（二本松市役所）

内 容

《西会津国際芸術村》

旧新郷中学校を文化交流施設としてリノベーションし、平成 16 年に「西会津国際芸術村」としてオープンした。

施設は木造二階建てで、事務室、移住相談室、コワーキングスペース、「じぶんカフェ」、チャレンジキッチン「まぼろしレストラン」、木工房、ギャラリー、展示室等で構成され、アート展や各種イベント・ワークショップ・セミナー等が開催されており、地域活動や文化活動の拠点となっている。

《福島県立安達東高等学校跡地》

福島県立二本松工業高等学校と福島県立安達東高等学校が統合されて、「福島県立二本松実業高等学校」令和 5 年 4 月に開校した。安達東高等学校は「安達東校舎」として残っていたが、令和 7 年 4 月からは廃校となった。

安達東高等学校は、農業科を中心に工業科や生活文化科を設置し、専門的な職業教育を取り組んでいた。普通科高校にはない特色ある設備と環境を活かした活動を多く行っており、この教育資源を活用して交流の場を創設する提案が、NPO 法人市民科学研究室から上がっている。その提案の中には、体験型農業プログラムの実施も含まれており、地域資源を生かした交流施設への活用が期待されている。

〔案 5〕官民連携のまちづくり〔1泊2日〕

テーマ：まちづくり／空き家・空き店舗の活用

目的：公民連携とエリアリノベーションの推進について学ぶ。

視察先：岩手県花巻市（花巻市役所、百貨店、花巻中央広場）

紫波町（官民複合施設 オガール）

（現地までの所要時間3時間）

内 容：

《花巻市》

岩手県第4の都市・花巻市（人口約9万人）では官民連携によるまちづくりが進められている。

立地適正化計画を視野に入れた花巻市のまちなか政策は、元百貨店の再生のみに留まらず、花巻中央広場などの公共施設の整備を進める一方で、周辺エリアにはブルワリーやカフェ、土産店、福祉施設など、民間主導で新たなコンテンツが次々と生み出されている。百貨店閉店後の市街地に新しい挑戦がもたらされ、住民の生活に多様な選択肢を提供している。

《紫波町（オガール 官民複合施設）》

紫波町が紫波中央駅前の町有地を中心とした都市整備を図るため、町民や民間企業の意見を取り入れ、紫波町公民連携基本計画を策定。これに基づき、平成21年度から紫波中央駅前都市整備事業（オガールプロジェクト）が始まった。

「オガール」には、図書館・町役場・飲食店・レンタルスペース・スポーツ施設・宿泊施設・病院など、日常生活に必要な施設が集約されている。少子高齢化や人口減少社会の状況下での、インフラ整備の在り方や福祉施策への取り組みなどのまちの課題に対し、公民連携でまちづくりや事業開拓に取り組んでいる。